

防火防災への願い

熊本市立河内中学校

藤森

あまの

私は「防火防災」について考えてみると、今年三月十一日におきた東日本大震災のことも思い出す。その震災の中で、大きな津波がきたのにも関わらず、学校内にはいた生徒が全員助かった小・中学校があると知った。私はあんなに大きな津波がきたのに、なぜ全員助かることができたのか疑問に思った。

その秘密は日ごろから避難訓練などに力を入れているからだろう。それと生徒の防災意識が高いからだろうと思う。私はいま、今来下に大まかい災害にあつたこともなく、防災について考えたことがない。避難訓練もあまりやらなかったことがない。河内町は川も海も山もある自然豊かな町だ。しかし少し考え方を変えてみる。と、海にも山にも、津波や土砂災害などの危険は潜んでいるのだ。だからこそ、避難訓練も行うべきではないのか。何かおこつたらからではおそいのではないだろうか。考える

ことも大事だ。

そこで、それを防ぐためのことやものがあ
ることを知っておけばいいと思う。

例えば、今、全部の家に火災報知機をつけ
るのが義務づけられている。そうしてつけて
おくことで大切な命を守ることもができる。ほ
かには耐震構造の家など、建物から防ぐこと
もできる。

でも、やはり人間は災害をとめることはし
ない。しかし、自分の命は自分で守れるの

だ。地震がきたときは、タンスなどには近よ
らず机の下などに隠れば落下物で命を落と
す危険は少なくなる。津波の時は高いところ
に逃げる。そうすれば助かる確率も増えるの
だ。

今回の東日本大震災がおきたときの原因を
調べるのも、もちろん大事だ。でもそれより
ももっとも大事なことはい、じつして被害を防げ
なかつたのかなどを分析し、次に生かすこと
だと私は思う。災害を学べることはたくさん

ある。学ぶたけではなく、それを実行に移す
ことも必要だ。

「防大防災」一言で言えば簡単だが、完

成にできるという事は難しい。だから、今

後、地震を予測したりする機械などができ

ることを期待している。そして防災につい

ても、とも、とみんなの意識が高くなること

願う。